

平成29年度 有田町立有田中部小学校 学校評価計画

<p>1 学校教育目標</p> <p>有田を愛し、夢や希望を持って、明るく元気に生きる児童を育成する。</p>	<p>2 本年度の重点目標</p> <p>教職員の資質を高め、児童の学力向上を図る。 児童へのきめ細かな支援を行い、心の教育を充実する。 望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身の健康を育む。</p>
--	---



3 目標・評価
教職員の資質を高め、児童の学力向上を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
学校運営	教職員の資質向上	・校内研究の推進 ・教師の授業力向上	・全職員で取組内容を共通理解して取り組むとともに、全クラスで実践的授業を実施する。 ・児童アンケートで、「授業が楽しい」の指標を85以上、保護者アンケートで「授業を工夫している」の指標を80以上にする。	・事前・事後の研究会も含め授業研究会に主体的に参加し、「楽しく意見を交流し合う授業」づくりに努める。 ・授業において、2人、3人、グループ、全体など必要に応じて話し合いの種類を適切に設定し、授業評価を行い、自身の授業力の向上を図る。 ・積極的に内外の研修会に参加し、自己の指導との比較を行いながら、指導技術の向上を図る。
教育活動	学力の向上	・個に応じた指導の充実による基礎学力の向上	・CRTで各学年の得点率平均を全国同等か、それを上回るようにする。 ・12月県調査では、各学年の平均を県同等か、それを上回るようにする。	・発問等を工夫したり、書く場面や説明する場面を効果的に授業に仕組んだりすることによって、児童の弱点である活用力の伸長を図る。 ・習熟度に応じた補充指導の在り方を模索し、具体化する。 ・読書タイムの在り方を検討し、ただ読むだけでなく、要約、感想、引用など書く活動との連結を模索し、具体化を図る。 ・家庭学習の充実を図るため、活用問題も含めた効果的な課題の与え方やノート記述の好例の掲示の仕方を工夫する。
	教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・「分かる授業」「楽しい授業」づくりの推進	・授業において、黒板での情報提示、教師の発話による情報提示、WBでの情報提示を区別し、最も有効な方法の選択能力を高める。	・提示する情報の質を保証する方法と効果的な提示方法について、常に考えながら授業を構成する。 ・機器操作の研修だけではなく、情報の質と提示方法に関する実のある研修を年間数回実施する。
学校運営	開かれた学校づくり	・地域と連携した体験活動の推進	・地域の人材を活用した体験活動を通して、地域との連携を進める。	・教育活動に地域人材を活用し、地域のよさを体感させる。 ・体験活動で得た知識・技能をはじめ、身に付けた能力を発揮できる場の工夫などを行っていく。
		・積極的な情報発信	・保護者アンケートで「学校の教育方針・内容を概ね知っている」の指標を80以上にする。	・学校便り、学校メール、ホームページ、各種会合等の機会をとらえ、情報発信の機会を増やす。

児童へのきめ細かな支援を行い、心の教育を充実する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	心の教育	・いのちの教育、人権教育の充実	・児童アンケート「学校が楽しいですか」で、「とてもそう思う」の割合を75%以上とする。 ・保護者アンケート「お子さんは、「学校が楽しい」と感じていると思いますか。」で、「とてもそう思う」の割合を50%以上とする。	・道徳の授業の充実を図り、「いのちの教育」「人権教育」の充実を図る。 ・週に一回、「気に入りたい子の共通理解」を行い、特に大きな課題を抱える子供については、個別に解決策を探る。 ・Q-Uアンケートの結果に基づき、年2回の研修を行う中で、「いのちの教育」「人権教育」とも関連させながら取組を検討していく。
	生徒指導・教育相談	・規律ある学校生活の確立 ・教育相談の充実	・学校のきまりや社会のルールを守るようにする。特に、本年度は元気な挨拶ができるよう指導を強化する。 ・児童アンケートで、「悩みがあったとき、相談する友だちや先生がいる」の指標を85以上にする。 ・相談内容を的確に把握し、SCとの面談や専門家との相談につなげるなど、連絡・調整の機能を適切に果たす。	・廊下歩行、トイレのスリッパ並べ、無言掃除などについて、全校集会や学年集会で常に意識付けを行う。また、全職員で臨場指導を行い、委員会活動等で児童の自己啓発を促す。 ・児童や保護者が気軽に相談できるよう、お便り等での情報発信を増やす。 ・月末に一か月間の気持ちを振り返る「月のこころ」を実施し、日頃から気持ちを素直に表現することや困った時には相談してみるという雰囲気づくりに努める。 ・相談担当者が担任との情報交換や校内巡視の機会を増やして、児童理解に努める。
	いじめの問題への対応	・いじめの早期発見・早期対応に向けた体制づくり	・保護者アンケート「学校は、いじめ防止に向けた取組を適切に実施しているか」で、肯定的回答の割合を75%以上とする。	・いじめに関するアンケート、教育相談週間を実施し、状況把握を適宜行っていく。 ・月末に一か月間の気持ちを振り返る「月のこころ」を実施し、人間関係での悩み等をできるだけ早い段階で掴んでいくようにする。 ・人間関係作りに効果的な体験活動を取り入れるなど、いじめ根絶に向けた取組を進めていく。
	特別支援教育	・校内支援体制の充実	・児童一人一人の教育的ニーズに応じた指導及び支援に努める。	・5月と2月にアンケートを実施するとともに、検査や参観等で支援を必要としている児童を把握する。 ・昨年度、「要支援」として名前の挙がっていた児童について、今年度の変容を探り、今後の支援について検討する。 ・個別の教育支援計画、指導計画の作成及び活用を進める。

望ましい生活習慣を身に付けさせ、心身の健康を育む。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	健康・体づくり	・児童の体力向上 ・望ましい生活習慣の形成	・体育的行事に「進んで楽しく参加している」児童の割合を増やす。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」を奨励し、保護者アンケートの結果で、肯定的回答の割合を90%以上にする。	・持久走やなわとび月間等を設定するとともに、「外遊び」を励行し、楽しく体を動かす機会を増やす。 ・「早寝・早起き・朝ごはん」についての児童の自己チェック週間を年間2回実施し、意識付けを図るとともに、保護者への啓発を行う。 ・規則正しい生活習慣の大切さを学級活動で指導する。
	低学年の学習環境の改善・充実	・低学年の基本的な学習・生活習慣の育成	・「あいさつ・返事をきちんとする」「立腰でよい姿勢ができる」の定着を図る。	・全校での共通した「生活のめあて」として具体的に取り上げながら、継続して指導していく。 ・「有田っ子スタイル」を活用して、基本的な内容を統一して指導していく。

は必須項目、 は特定課題、 は独自評価項目